

# 千葉県国土利用計画地方審議会第3回国土利用計画調査検討部会 議事録

開催日時：平成29年5月25日（木）

午前10時00分から11時30分

開催場所：ホテルプラザ菜の花

4階 特別会議室

司 会	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから千葉県国土利用計画地方審議会第3回国土利用計画調査検討部会を開会いたします。</p> <p>私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、事務局、政策企画課の佐藤と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、政策企画課副課長の榊田より御挨拶申し上げます。</p>
榊田副課長	<p>政策企画課副課長の榊田でございます。</p> <p>本日は、大変お忙しい中、本部会にご出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>第5次国土利用計画の策定に向けて、前回、第2回部会では、第4次国土利用計画の評価等についてご審議いただいたところです。第3回目となる本日の議題は、「県土利用の課題について」及び「県土利用の基本方針について」でございます。</p> <p>本日の議事は、適切な県土利用を推進するため、次期計画の骨子案を作成する上で重要なものと考えておりますので、皆様の専門的な知見から御審議のほどよろしくお願いいたします。</p>
司 会	<p>続きまして、お配りしております資料を確認させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 会議次第</li><li>・ 部会委員名簿</li><li>・ 座席表</li><li>・ 資料1 第5次千葉県国土利用計画・土地利用基本計画の基本的な方向性について（案）</li><li>・ 資料2 国土利用計画と土地利用基本計画の統合イメージについて（案）</li><li>・ 資料3 今後の主な議事の予定について（想定）</li><li>・ 参考1 第4次国土利用計画の評価（案）</li><li>・ 参考2 千葉県内における風力発電施設の設置状況</li><li>・ 参考3 第4次国土利用計画における規模の目標設定の考え方</li><li>・ 参考4 千葉県国土強靱化地域計画</li><li>・ 参考5 第5次国土利用計画（全国計画）</li><li>・ 参考6 千葉県国土利用計画地方審議会国土利用計画調査検討部会設置要綱</li></ul> <p>以上でございます。不足等ございましたら、事務局の方へお申しつけ</p>

	<p>ださい。</p> <p>なお、本部会は、お手元に参考6として配布してございます設置要綱第4項の規定に基づきまして、公開することとされております。また、部会の議事概要につきましては、同設置要綱第8項に基づきまして、後日公開する予定ですので、御了承願います。</p> <p>では、次第に従いまして議事に移らせていただきます。ここからの会議の進行につきましては、千葉県行政組織条例第33条第7項で準用する第32条第1項の規定によりまして、部会長をお願いしたいと思います。それでは、池邊部会長よろしくお願いいいたします。</p>
池邊部会長	<p>それでは、早速議事に入りたいと思います。</p> <p>はじめに、本部会への「報道関係者」及び「傍聴者」の参加について確認します。本日の部会に、「報道関係者」及び「傍聴者」は参加していますか。</p>
司 会	<p>本日は、報道関係者の方及び傍聴者の方もいらっしゃいません。</p>
池邊部会長	<p>それでは、議事に入らせていただきます。</p> <p>今御説明がありましたように、今日は第3回ということで、資料3のところを見させていただけますと、第3回というのか今回のところで、県土利用の課題そして基本方針、次の6月30日が約一か月後ですけれども、ここで利用目的に応じた区分ごとの基本的な方向、規模の目標、課題解決に向けた方策・措置についてということで、言わば3回、4回、ここ2回あたりが山場だというふうに思っております。</p> <p>本日大江委員が急きょ御欠席ということで、メンバー的には少し足りない部分がありますけれども、4回のときに少し戻ったりしながら、この基本的な方針と課題について詰めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは早速ですけれども事務局の方から前回、委員の皆様方からいくつか質問というか宿題というか、そういうものをいただいたと思っておりますけれども、それについての説明をした上で本日の議事である県土利用の課題についてというのと、基本方針について、一括で説明したいというふうにいただいておりますので、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(説明)</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>強靱化地域計画の位置付けというのはどういうふうに考えておられますか。一番新しいものなので。</p>
事務局	<p>国土強靱化計画につきましては、7ページの下ほどに、「千葉県国土強靱化地域計画と他の計画との関係」、イメージ図がございます。そこを見</p>

	<p>ますと、千葉県国土強靱化地域計画が左にございまして、国土強靱化観点からの指針を反映する形で、千葉県国土利用計画、右側の一番左ですね、そうしたところに反映してくる、かかってくる計画となっております。</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございました。      以上が前回の質問に対する答えということでございますが、何も御質問がなければ一括でと思えますけれども、何か御質問があればここでお受けしたいと思えます。</p>
各委員	<p>－特になし－</p>
池邊部会長	<p>よろしいでしょうか。      では、本日の資料の御説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(説明)</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございました。      今御説明いただいた資料1並びに資料2ですけれども、非常に良く整理はされているのですけれども、先ほどおっしゃられたとおり、じゃあこれは“千葉県の”と言われると、日本全県どこでも管理水準が低下していたり、自然環境・景観の悪化であったり、もちろん災害についても全国でやっているわけですね。そのような中で、今回皆さんが“千葉県の”というところで考えたときに、細かくは今御説明があったように特色も少しあるのですけれども、今回統合されるということも含めて、何かしら目玉だとか、こういう表現に変えると千葉県らしくなるのではないかとか、より課題を明確に語る言葉があるかとか、その辺りについて御意見をいただければと思えます。      皆様いかがでございますでしょうか。      課題については、要するに項目として大きなこの三つ、「管理水中の低下」と「自然環境・景観の悪化」、「大規模災害発生への備え」でいいのかどうかというのはどうでしょうか。</p>
志賀委員	<p>課題と基本方針の各所を見て、キーワードとして産業経済みたいなものが弱いのでしょうかね。産業経済は結構いろいろなことの基盤で、それが県土利用なり自然環境・景観とうまくマッチしてというような、時代としてはそうだと思うのですけれども。それが単独でそういうふうに立てるのか、どこかにそういうニュアンスを埋め込むかというのはあると思うのですが、ちょっとそこはあってもいいのかなという気がしているのと、千葉県は47都道府県の中でも首都圏で、結構商業なり農業水産業あたりの産業はそれなりにしっかりあって、しかも東葛とかそういう上の方と半島部の違いがあって、ということだと思うので、その辺をどうするかというのは、パッと見た印象としてあるというのが第一点。      それからもう一点は、自然環境・景観というあたりなのですけれども、</p>

<p>池邊部会長</p>	<p>どちらかというとな千葉県の自然環境・景観というのは、里山的というか、例えば国立公園とか、原生自然保全地域というのがあってというよりも、自然公園でも県立公園とか国定公園みたいなことで、人里というか、文化的・歴史的なことも含めた自然景観みたいなものが自然環境・景観の特徴としてあるということだと思っうんですね。ですからそれは国レベル全体と違っうというとな語弊があるかもしれませんけれども、何かあるのかなという感じもしてござりまして、それと先ほどの産業というとな特に5地域区分でいう農業とか、森林との関係ですとか、その辺があるかなと思っいます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今の話の中で私も少し気になっていたのが、今までのこの国土利用計画は、産業との結びつきがないのですけれども、千葉の場合ですと、さっき委員がござりされたように、農業はもちろんですけれども、工業も物流も、物流は成田も含めたものでもすけれども、あと漁業、観光も含めて、様々な産業がある。そういった意味ではその一流というとな、農業については全国2位ですし、最先端のものがある。ただ、それがこの県土利用にどう反映するかというところ、今まであまり出ていなかったのて、そのあたりは今日、経済政策課さんもお出でいただいでいるでしょうから、これからの問題としては、やはり担い手がないと、いくら農地があってもだめですし、漁業も含めて、人の問題というとな、それを後押しできるのは経済産業の方だと思っいますので、ぜひともその辺りの言葉を入れていきたいなというふうにお思っいます。</p> <p>自然環境・景観のところは、どうでしょう、岡委員。</p>
<p>岡委員</p>	<p>志賀委員が今まとめてくださったように、千葉県は、一次産業を基盤に人と営みと自然との調和が今まで保たれてきた。房総半島の山間丘陵地、それを取り巻く海沿いの漁業の町、東に広がる平坦地は水田利用がされてきて、それに合わせ動物群が生息し、東葛地区は首都圏のベッドタウンに変わったが、田園都市として機能していた。湾岸では第一次産業から第二次産業に移行した特徴があります。県の陸水の印旛沼と手賀沼は面積が大幅に狭まりましたけれども、県境の利根川地域の氾濫源で草原性の動物や植物が生息し、その自然の配置の特徴はとても魅力的といえらと思っいます。自然環境のこの大きな特徴を持つ県土で、都市機能をまとめながら、人間が営みを維持しやすいゾーニングと、自然環境を優先させるゾーニングが求められる時代に来ていると思っいます。というのて、放っておくとスプロール化されてしまひ、維持コストがふくらんでくるからです。人間のライフラインを整えるコストと、景観破壊、あるいは自然が分断化されるのを防ぐコストが非常にかかってきてしまひ。自然環境の分断化を修復するようなコリドーというとな回廊を発達させていくと、時間をかければヨーロッパのようになうまく運営された自然環境というのて残ってくる。原生的な自然環境は千葉県にはないので、人間が営みながらうまく自然環境を利用というとな保全することを積極的に打ち出すと魅力的なものになると思っいます。</p>

池邊部会長	<p>それはすごく特色になりそうですね。特にやはり今効率的な土地利用と言われてますけれども、今までは効率的といったときに都市と農業の差別化みたいなものだけだったのですけれども、今おっしゃられた自然環境を集約化して、それをしかもコリドーのようにきちっと位置付けていくというのは、ある種、守るためにも非常に有効だし、開発する側にとってもある程度明確になっていて、非常にいい戦略だと思います。特に千葉のような緩やかな自然と言いますか、志賀委員もおっしゃられたようなそういう中でこそできるものなのかなと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>中村委員いかがですか。</p>
中村委員	<p>人口減少とまずうたっているのですけれども、皆さんのおっしゃっているように千葉県は自然の豊かな地域と東葛・湾岸ゾーンみたいに首都圏のベッドタウンとしての機能を持っている地域などに大きく分かれていまして、人口減少だけではなくて、人口増加の問題の課題というのがあるのもいいのではないかと思います。</p> <p>前回、震災以降地価が下落しているというのが、まだ一割程度低いですというような答えをしたのですけれども、一応調べてみまして全ポイント調べることはできなかったのですけれども、県と国で共通のポイントで調べている地点がございまして、その地価水準を平成20年から追ってみると、大体平成20年をピークに一回下がり、リーマンショックで、その後また持ち直したところ、震災によりまた下がっているという感覚なのですけれども、圏央沿いだけは今も結構上がっているところがありまして、やはり圏央道を見込んだ土地の有効活用みたいな物流施設ですとか、例えば木更津とかですとアウトレットもできてますし、結構活気のある地域なのですね。そういったところも人口の増加とかも見込めると思いますので、圏央道を活用してというのも盛り込んだ方がいいのではないかと思います。</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>多分、日本人は問題点と課題が好きなのですよね。何でも悪いことをへつらって結果的にその解決ができるかというできないのに問題点と課題だけ上げるのですけれど、今中村委員がおっしゃられたように千葉が努力してきて、まさに圏央の話は全国が下がる中でも頑張っているところでもありますし、オリンピックとかそのあとに向けても経済発展しうべきところだと思いますので、そういった意味では課題というふうに捉えているかもしれませんが、特徴と課題みたいな形にして少し褒め育てではないのですけれども、今少しくまきかけているところをもっと戦略的にうまくやっていくのかということですね、それと人口増みたいなものは一緒にくっつけられるのかどうか。なかなかアウトレットが来ても人が増えるという感覚にはならないということもありますので、逆に言えばそういうものと定住しやすい街の考え方というのでしょうか、そういう</p>

	<p>人たちをどういうふうに関便性のいいところにはりつけていくかというのを、今までのようなスプロールという形でなく、計画的な人口のはりつけ方という、その辺りは非常に新しい課題かなと思います。</p> <p>アメリカはまさにそういうアウトレットの周りにいい住宅地がはりついていたりするのですが、日本の場合はアウトレットの周りは農地と林地ばかりみたいな感じで、アウトレット一つだけおかしな土地利用になっていますけれど、そういった意味ではそれがもうちょっと考えられてもいいかもしれないです。</p> <p>ほかにはございますか。</p>
中村委員	<p>よろしいですか。</p> <p>以前いただいた資料で、水面・河川・水路の面積が増えていったのですが、これは利根川みたいな感じで自然環境を整備した上で増やしているみたいなことだったのでしょうか。</p>
池邊部会長	<p>事務局の方はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>お配りしております参考の3を御覧いただきたいのですが、今中村委員がおっしゃっていただいたのが、現在第4次計画の目標の数値が基準年次よりも増えているといったところなのですが、数値につきましては、「千葉県農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針」におきまして、すみません資料は農地面積になっておりますが、水路面積といったところを参照しております、水路も段階的に推移している状況ですので、その面積の増加分ですとか、河川対流による河川面積の増加などを見込んだものとなっています。</p>
池邊部会長	<p>今日はちょっと大江委員がいらっしゃらないのですが、農業についてはどうでしょう。県の方から何かありますか。先ほどのもう少し千葉らしさのようなことですか。</p> <p>減るばかりではなくて何か新しい戦略的なものも出ているんですね。6次産業とか。</p>
農林水産政策課	<p>そうですね。中でも議論をしているところなんですけれど、委員の方の発言にもあったと思うのですが、千葉県に関してはいろいろな産業がバランスよくあるという県でして、その中で都市と農村と、というのがあります。その交流の場もあると考えていまして、例えば体験農業ができるとか、観光があるとか、そういった部分としての県土利用というのも考えていいのではないかという話にもなっています。併せていろいろな産業がありますので、交じり合う場として、先ほど部会長も言ったような6次産業化とか農商工連携、農業と商工が連携して、新たなものを作り出していくとか、そういったものもあるだろうという議論にはなっております。</p>
池邊部会長	<p>この県土利用の課題というのを1、2、3とだけ見ると、農業の従事者</p>

	<p>の方は自分たちのところは何も書かれていないという、実際には千葉県内の農用地の割合は非常に高いのに、なぜか人口減少とか自然環境とか災害とか書いてあるけれども農業のことは何も書かれていないという感覚があるような気がするのですけれども。実際にはこの農地・森林の管理水準の低下とは書かれているのですけれども、やはり悪いことしか書かれていないので、むしろ農業がこれから頑張っていくってそれが県土利用にこういうふうに反映するんだという、第5次として打ち出していく県土利用の目標像の中に、今おっしゃられたもっと農業との連携を書けると良いと思います。</p> <p>私は今東京に住んでいるのですけれども、東京都民がいろんな体験をするという、長野とか山梨とか、埼玉とか意外に千葉の方向になぜか行かないのですよね。富浦は海によく来ていたのですが。</p>
<p>農林水産 政策課</p>	<p>今、アクアラインや圏央道を通して木更津のエリアとかでだんだん観光の動きが農業でも出てきておりまして、いちご狩りとかそういうものもあるのですけれども、そういった資源を生かしながら産業を発展させるような土地利用も含めて、そういう内容も中に入れていった方がよいのではないかという意見が出ております。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>富津に行ったときにとっても大きな貝とかが打ち寄せられていて、それまでの千葉のイメージとは全く違った、いわゆる御宿とか泳いでいる方とは全く違った、やはり突端だけあるすごく自然的なものが打ち寄せられていて、子供たちが来るととても楽しいだろうなと思うのですけれども、なかなかそういうところまで行っていないので、今回道路が整備されたことによって、もっとそういう需要とかもあり得るのかなと思ってはいます。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p>
<p>岡委員</p>	<p>農業に関連して、水路が増えていると事務局の方がおっしゃってられましたよね。</p> <p>農業用水路全般、あるいは基盤強化目標のような三面張り水路の長さの増減をおっしゃっているのですか。</p>
<p>農林水産 政策課</p>	<p>水路について、どの部分を積み上げてこの面積にしているのかというのをこの場で今すぐには分からないので、調べてお答えする形になります。</p>
<p>岡委員</p>	<p>あえてなぜ伺ったのかというと、従来型というか伝統的な水田はあぜ道があってちょっと掘り下げた水路があって、場所によっては悪田というか、一年中、冬が水が抜けないようなところもあって、そこにどじょうなどが春までずっと生息して、水が入るとまた彼らの生息地が広がって、そこに捕食者の鳥が入ってきてということが繰り返し営まれています。耕運機を入れるとなると、乾田にしたい時期がある。そうすると水を早く抜くためにコンクリートの三面張りにして、人間から見れば生産性の上がる田んぼになるわけですが、逆にそこに住む動物たちにとっては暮らし</p>

にくくなり、生息地の分断が起こり、結果として動物の種類も数も減っていく。すでに東北でやられている取組みで、冬も水田に水を入れて雁を誘致し、結果として、糞で窒素やリンが供給されて、農薬などの使用も抑制され、全国にインターネットで宣伝し、雁や白鳥が冬に来てまた旅立って行く豊かな生態系を支えてください、一割増で買ってくださいますと付加価値を付けた特産米として販売し、結構買ってくださっている。千葉県でも水鳥はたくさん来てましたし、トキもコウノトリも来てました。県北でコウノトリを復活しようという試みが現在行われており、コウノトリが食べる両生類や爬虫類や魚類を生かすためにはこれまで向かってきた効率優先の農地運営から、自然の再生力を人間が関与して高めていく方向を入れて、ブランド力を上げていく。首都で地域絶滅した動物を再導入させていくような県土ビジョンの一つの方向性は、大きなアピールになると思いますし、江戸に幕府が作られるまでは、房総半島の丘陵地以外は大湿地帯だったので、そういう昔の自然環境を徐々に目指すというような打ち出し方は、首都圏の特徴ある県土の方向性になってくると思います。

池邊部会長

ありがとうございます。

すごくいい視点ですね。兵庫県ではコウノトリ空港なんていうふうにして、それだけで県のブランドの一つにしようとしていたりもするわけですから。それが千葉では日常的だったがために、多分皆さんあまり貴重に思っていないのかもしれませんが。そういった意味では新たな農というか、その一部としてそういうものという、逆に言えばそういうものをやるというところに若い人が興味を持って、若い農業をやろうという人たちがそういう農業ならやってみようかというような形で入ってくるというのも想定できるかと思えますし、御猟場も千葉はたくさんあったりもするので、そういった歴史、そういうものをもっと出していくということも必要かと思えます。

志賀委員

三点ほどあるのですが、一つは国際的なトレンドと、国レベルの話と、千葉県なり地域と段階があると思うのです。未来の気候変動枠組条約と生物多様性、持続可能な森林管理みたいな流れの、大体基本的な枠組みで軸が立っているんだと思うのです。そうするとあれから25年たつて、それなりにいろいろな枠組みがされていて、その先をどう見通すかというのはなかなか難しいと思うのですけれども、それを地域で受け止めたときに、千葉県という条件の中で、強弱というか全部取り組まなければならないのだけれども、千葉県として緊急な課題との、濃淡みたいなものが、要するに国際レベルなり国レベルのものを意識はするのだけれども、県土なり地域目線でそれをどういうふうにそういう国際的なトレンドを受け止めるのかという主体性みたいなものが見えた方がいいのではないかなというのが、難しいですけど一つなのですね。

それから先ほど岡委員のおっしゃったことは非常に重要だと思うのですが、文化的・歴史的な景観というのは、例えば千葉というと東京国際空港と東京ディズニーランドというような話なんだけれども、自然環境

	<p>で見れば、一つの藩みたいなおことではなかったという江戸時代からのこともあって、非常に多様性があるし、それから森林だけに限ってみても、佐倉炭なんていう炭の生産地であったり、山武辺りだと江戸時代からあったような木が残っていたりということがあります。それはとても象徴的なことではあるんだけども景観とか環境とかを考えると、千葉のそういう歴史的・文化的なバックグラウンドみたいなものを踏まえた上で、国際的なコンセプトみたいなところでどう結び付けられるのかというスタンスがあってもいいかなというのが二点目です。</p> <p>それから三点目は、これも先ほどの岡委員のおっしゃったことと関係するのですが、森林のことを取ってみた場合に、国レベルなり国土利用計画は面積とか人工林がどれくらいあるかとかという観点の指標にどうしてもなりがちなんです。だけれども先ほど岡委員がおっしゃったようなことだと森林がどういう形で分布していて、それがほかの土地利用とどんな形になっているか、あるいは林縁がどうなっているかというのはなかなか定量化しにくいので、そういう指標はなかなか立たないのですが、ヨーロッパの動向を見てみると、そういう景観なり生物多様性の中で森林がどうあるかということを考えた場合には、ちょっとそういうことに重視されるようなトレンドに多分なっているのだと思うのです。そうすると基本的な土地利用のところで面積とかはどうしても出てくるのは仕方ないにしても、それだけではないということでも千葉県は土地利用を考えていますみたいな、バックグラウンドとしてはあってもよくて、それがどの程度書けるかというのはまた別の問題だと思うのですが、そのように思いました。</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>一番目の視点は、具体的にどういうふうにといいのは何かありますか。これだとインターナショナルで日本国全体の話みたいになってしまうので、もう少し千葉県らしい絞り方があってもいいのかなと思うのですけれど。</p>
志賀委員	<p>一回目か二回目のときに持続可能性みたいな話があって、それは経済と社会と生態的な環境があるというような話があって、それが千葉県の中で強みと弱みがどういうふうにあって、そのところで、強みは残していけばいいのだけれど、こういう土地利用という観点から今取り組まなければならない課題というのはどういうことなんだという整理ができるといいのかなという感じがしました。そういう整理をした上で、課題というのはそこに乗ってくるものだと思うのですが、そうするともう少し千葉の実情を踏まえた上での課題なり基本方向がクリアになってくるように思います。</p>
池邊部会長	<p>文化的・歴史的というのはまさに日本遺産も、世界から一番江戸に近いということで成田とか佐原とか佐倉とか皆頑張っていますし、それと相まって経済だとか定住人口だとか、そういう部分も入ってきたりしています</p>

<p>志賀委員</p>	<p>し、やはり千葉という、先ほど利根川という話もありましたけれど、佐原も利根川と江戸あつての佐原みたいなどころもあつたりしますので、少し文化的・歴史的観点をに入れていくのは必要かなという感じはします。 ほかにはございますでしょうか。</p> <p>都市と農山村の関係というのが、今の段階は例えば農山村の振興を農林業だけでやるのは明らかに無理というのが見えてきていると思うのですね。世界的にも多分そうで、そうするとやはり都市と農山村というのがどういう関係性の中で、相互に発展していくような枠組みが作れるのかということだと思ふのです。そういうことからいうと千葉県というのは、江戸時代からいろいろなものの中で地域が推移してきて今に至っている。その今の中で東葛みたいなどころもあれば、政令指定都市もあれば、もう少し中核的な都市もあるし、そうでないところもあるという、その辺の都市、農山村関係というのか、自治体の規模というのか、要は多様な主体の参画による県土管理というのが、一般的にはそうなんだけれども千葉の現状と都市と農山村みたいなどころでどういうことが課題なのかを次回に確認できればいいのかなと。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>そこは私も気になっていてずっと参画具合が弱いので、連携・協働という形で、その中には県民とか事業主体の部分がもうちょっと入ってきてよくて、静岡はもう何十年も一村一品運動みたいなので、各企業が CSR で入ってきたりもしてますけども、千葉は豊かだから手を差し伸べなくてもいいだろうというふうに思われているかもしれませんが、企業にとっては近いので、それこそ車で来れば30分くらいで来れるところもあるので、そういう意味ではもう少し「多様な主体の参画」というのは20年くらいおっしゃっている言葉なので、もう少しここを前向きに進めるような形に入ってもいいのかなという感じはします。 ほかにありますか。 災害のところはどうですか。「千葉県国土強靱化地域計画」があるので安心してしまっているところもあります。</p>
<p>志賀委員</p>	<p>あと県民というのか住民というような目線で見たときに、私は一応千葉県民なのですが、年寄と子育てをしている世代とかが、こういう県土利用みたいなものを見たときに、一つでも共感できるようなもの、私の生活と関係あることが少し書かれているような、もちろん環境がいいとか重要ですけど何かちょっと住民生活との接点のようなものがあれば。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>ライフスタイルが見えてくるようなものですね。 総合計画や都市マスとか緑の基本計画だとビジュアルにして表紙にしたりしますが、国土利用は本当につまらない紙きれで、県の方も読みたくない紙の一部だと思うのですが、逆に言えば、今回統合するという新しいものがありますから、少しそこを戦略的に県民の方にもそういうものがあるんだということに興味を持ってもらうというのはぜひあつても</p>

	<p>いいのかなという気はします。</p> <p>千葉に住むとどんなライフスタイルが営めるのかなとか、自然があつて海もあつて、利便性も高く、気候も穏やかで、古くから人が住んでいた歴史もあつてという、そういうところが少し見えてくると、それこそ人口減少に対してどうするのかというところにも返ってくるのかなと思います。</p>
志賀委員	<p>地価が安いから神奈川ではなく千葉に住みますとか。</p>
中村委員	<p>千葉県はアピールが下手なんだと思うんですね。神奈川県はアピールがすごく上手じゃないですか。確かに歴史遺産は多いのですけれど、千葉も負けずにあるのに地価で言うと、神奈川と千葉は10点くらい違うんです。やはり千葉の方が低いです。だから千葉が安いから住むという方もいらっしゃるけど、高くても神奈川がいいという方もいらっしゃる。そのアピール力が弱いのではないかと。もともと温暖で、皆さんがおっしゃっていたとおり、何もしなくても生活ができていたので、それ以上アピールをする必要がなかったということだと思うのですけれど。</p> <p>課題とかにもこうしていきたというような明確なすばらしい千葉県のビジョンを盛り込んでいった方が今後、未来が明るいことになっていくのではないかと思います。</p>
事務局	<p>資料の構成上、課題について多くなってしまったのですけれど、前向きな、皆様のおっしゃる特色などを書いていこうと思っております。</p>
池邊部会長	<p>課題の解決になるようなことが、得意な褒め育てする部分とだめな部分と一緒にいける、そうやっていくのが、これからのやり方なのだろうと思うのですよね。やはり千葉県が魅力的に見える、今までだと総合計画はそう見えればいいという感覚があったと思うのですけれど、国土利用計画は別にそういう役割ではないと思っていたのかもしれないですけど、少しそういった役割を持たせて来ることによって、リアリティがより県民の方にも身近になるし、特に県政に関わる方々も、なかなかこちらの、土地利用計画は各セッションがやられているのですけれど、国土利用はそれの追認みたいな感じで今まではあまり戦略的に使われてこなかったと思うので、もう少し戦略として使うという手があるのかなと思います。</p> <p>今回は資料1を課題ということでそこだけに絞られたということと、内容的には全てを網羅性ということで少してんこ盛りになっているせいもあって、千葉県らしさみたいな部分が少し抜けてしまっているというので、その辺りを少し強く出すことと、従来型の土地利用より、もう一つ先導的と言ったら変ですけど、そういうところできないまでも一応目標として目指してみるというのはあるのかなと。</p>
事務局	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>今、県の方でも総合計画の策定作業を進めておりまして、ちょうど今日</p>

原文が発表されるタイミングです。こちらの方も次世代に誇れる千葉をいかにして残していくのかという視点から、いろいろ厳しい状況にあっても前向きに取り組んでいきたいと思いますというメッセージを盛り込んだものを作っております。総合計画も課題は課題として出していますし、良いところもきちんと見えています。そういうところを土地利用という観点からどういうふう to 実現させていくのかということを確認に入れていっても良いのではということをおもいました。

あと、歴史的な背景に対する御指摘をたくさんいただいたのですが、それこそ縄文時代から貝塚がいっぱいあるくらい千葉は豊かですし、スカイツリーより高いところがないくらい平らで、それは逆を返せば皆さんが豊かに暮らせる土地がいっぱいあるという千葉の強みでもあります。最近の地域振興や国土開発は、もともとある資源をきちんと活用しないと、それぞれ発展していけないというのは皆さん肌感覚で分かっていた部分もあると思います。そこを見える化して、多分に理念的なところにはなってしまうかもしれないですけど、そういう指針になるようなものを盛り込めれば良いなど、今日のみなさんの御意見をお聞きしながらおもいました。事務局として、どうしても課題から、辛いところから見てしまうのですが、今日いただいた目線で整理させていただいて、次にもう少し膨らませていければと思います。

池邊部会長

首都圏全体を見ていますと、埼玉はまだ人口が増えているところがたくさんあって、交通の便だけとは言えない、昔は農業でも粟だとか稗だとかしか取れなかったし、そういう豊かさのない中で、どんどん変わろうとしてきている、そういうものの勢いに比べると、千葉は資源が有り余っていて、県民性もあって、その部分をいいふう to 捉えて、どういうふう to 人にもっと住んでいただくということも含めて考えるかというところが一番の課題かなと思います。人口が減ってしまったら、都市部の人口が減ってしまったらだめですし、農業人口が減ってしまうのも一番きついで、逆に言えば遠いところで6次産業がいろいろやられていますけれど、実は千葉みたいな近いところでできれば、一番いいわけですから、東京にも近くて、遊びに行くにもいいし、農業もできるという感じでうまくそこら辺がリンクできるといいのかなという感じはいたしております。

そうすると「県土利用の課題」のところの特徴と課題みたいな形でいいところも含めて、少し書き換えていただく部分と、あと、「基本方針」の方では、特に2の部分と4の部分に少し今日の議論を踏まえて、2のところは特に志賀委員と岡委員に言っていたような部分で、1のところは中村委員がおっしゃられた地価が頑張っているところみたいな部分も入れていただいて、4は私も申し上げましたし、志賀委員も申し上げましたけれど、その辺りを少し強化する形で、戦略的にもっと強い意味での県土管理、参画ではなくて、もう少し県民に訴えるような形で、あるいは企業にも能動的に県土管理に参加していただくような形に持っていければいいのかなと気がいたしております。

それでは、次のことにも繋がっていける、当初の統合イメージのところ

	<p>に関して、当初は新潟の事例が出て説明されましたけれども、今回のこちらを見て何か先生方からありますか。</p>
<p>志賀委員</p>	<p>ちょっと一つだけ、前の横断的な課題というのが5地域区分と都市の問題と産廃の問題といくつかあったのですけれども、横断的課題みたいなものは目次の方ではどんな形で入るのか、入らないのかということと、今の段階で大体これくらいのイメージですというのがあれば、あるいは次回でもいいのですけれども、御説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>横断的な課題という部分は、統合イメージのところは法定事項を並べてしまったのであまりでてきていないのですけれども、書かないということを決めたわけではなくて、どういうふうに書けるのかということも含めて検討したいと思っております。</p> <p>例えば都市と農村の交流みたいなものも横断的な課題だと思っておりますし、適切な土地利用の転換とか用地区分をまたぐものについて、どういものを書けるか明らかにしていきたいと思えます。</p>
<p>志賀委員</p>	<p>実現していくとなると難しいのですけれども、一応旗は立てておいた方がいいのではないかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>課題として並べさせていただいているところが基本的には分野的に行き渡る連携してはならないものがちりばめられていますので、これと同じレベルで横断的というよりは、もう少し下のレベルと言いますか、利用区分をまたいで、施設に複合的な機能を持たせたり、遊水池に景観の面と防災の面を持たせたりと、そういうようなことを考えていたのですけれども、まとまっていないのですが、そういうところを含めながら考えております。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>要するに遊水池の話は越谷レイクみたいな使い方もあって、あれはまさに農業の洪水のための施設が、新しい都市のリゾートではないのですけれどもそういうものに役立った事例なので、まさに埼玉のない中でやった事例なのですけれども、千葉は有り余る資源がありますので、そこをどうするかということ、私も先ほど志賀委員が言われたところと関係して、今の話で言うと、土地利用基本計画では、ここで言う5地域の重複する地域というのが、当初にもお話したかもしれませんが、トリプルとかフォースに重なっている土地があるというのが千葉の特徴でして、それを逆手にとっていいというふうに、さっき志賀委員がおっしゃられたようないろんな農業もあれば林業もあって、うまく重なり合っているというところで捉えるのか、重なり合っているからあまり誘導的には規制が働かなかったというような部分もあつたりもするのですけれども、その辺りも通常で言うと重複地域の調整方針は国でやっているものをそのまま追随するという感覚になっているので、その辺りも少し何かしら特徴ができるといいのかなという気はいたします。</p>

	<p>そうしますと次回に向けての事務局へのお願い、資料1の改題みたいなものをもう少し詳しくやっていただく、今日の議論を踏まえていただくのと先ほどお話にあったように今回は、区分ごとの基本的な方向とか規模の目標とか課題解決に向けた方策、この課題解決に向けた方策というのを出していく段階で、実際に出ていない課題とか今日うまくさらえていなかった部分がもう一回出てくるのかなという気はしていますけれども、何かありますでしょうか。</p> <p>この管理水準と言っている水準ということに対しては、何か考え方というのはありますか。</p>
事務局	<p>農地であれば耕作放棄地の問題には農地を集約して担い手を育成するなどあると思いますし、コンパクトシティということなので低未利用地になっているけれどもそこに集約できそうなところに集めていくとか、そういう抽象的なイメージは持っているのですけれど。</p>
池邊部会長	<p>私も国の土地利用基本計画のセクションと一緒に10年後どうなるかというシミュレートをしたことがあって、限界集落もそうだし、今高齢化しているところが10年後もっと進むとどういう土地利用の歯抜けになるかという部分もそうですし、むしろ逆にそうなった部分がどうなるのか、特に今回はあまり話題になっていなかったですけど、空き家の問題とかも大きいですし、へたすればニュータウンの空き家も出てきますし、その辺りも二次的土地利用が、今までは自然地が構造物になるというところまではよかったですのですけれど、今度構造物が残って、それが廃墟化するという、そういう中で都市的土地利用とは言われているけれども有機的に動いていない都市的土地利用、人も住んでいないというようなものをどう管理していくかという問題も派生してくるんで、その辺りの問題は結構由々しき問題だと思うのですね。要するに下水道だって上水道だって作ってしまっているんだけど、そこにどんどん空き家が生じてきてしまう。そこが使われない。一方で千葉の場合は違うところでスプロールしていて、どんどん新しい住宅地が作られているという感覚になっているので、その辺りがインフラ的な考え方からすると、本当は上下水道が整っているようなところはリニューアルしてどういうふうになっていくかというところを考えるべきなのだろうと思うのですけれども、このあたりはどうでしょう。</p>
事務局	<p>人が住まなくなったのに下水道があるところのインフラを撤退していくとかそういうことですか。</p>
池邊部会長	<p>撤退になるのか、むしろ新しい自然地のところを開発するのはやめて、そういうところをリニューアルすべきなのかということですか。</p>
事務局	<p>まさに機能の集約ということが言えると思うのですけれど、すでに使われていたところで、だんだん利用されなくなっているところも生かせるの</p>

	<p>であればそれは有効だと思いますので、そういうところも含めて検討していきたいと思います。</p>
池邊部会長	<p>計画論的に言えば、国でやろうとしている立地適正化の話だとか、コンパクトシティの話だとか、そういうものをこの国土利用の中にどういうふうに盛り込むかというところだと思います。</p>
事務局	<p>方策とかについては、立地適正化計画とか、そういうところが手段として出てくるとは思いますので、考えていきたいと思います。</p>
岡委員	<p>土地利用というか地目は制度的に不可逆的で、農地から住宅地に地目変更が成立すると戻すことができない。千葉県でとてもよく目立つ水田地帯のスプロール化、山並みが緩やかなのでゴルフ場がすごく多い。また放置されたゴルフ場の近くに新たにゴルフ場が造成されるということも起こる。それを元に戻していくような、修景的な配慮というか施策を長期的に大きなエリアゾーンに戻していく、恐らくそれは国土の強靱化に繋がってくると思うのです。</p>
志賀委員	<p>自然再生みたいのものとまた違うのですか。</p>
岡委員	<p>その部分ですね。自然再生という効率よい運営の仕方。</p>
事務局	<p>どこまで書けばいいのかですけれども、基本方針に書かせていただいている土地利用転換の例として、農地を森林にとありますけれども、例えば失われてしまったところを元に戻して、穴が開いているような自然を森林で埋めて、面的に自然を回復させるとかそういうことはあり得るかなと思っています。</p>
岡委員	<p>話を続けますと、横浜市が大規模な湾岸開発を始めたときにその残土が東京湾を横断して、千葉県の例えば館山だとか、国定公園のすぐ際に残土置き場が出来て、森林や溪流に流れ込み、雨が降ると河川を伝って、沿岸の磯も壊れるようなことを長くやってきたこともありますので、次の時代は千葉県のプライドで自然再生を行う仕組みづくりをそろそろ打ち出す時期かと思っています。</p>
事務局	<p>残土の話は、今岡委員が言われたような話ですけれども、先ほど志賀委員が言われたような横断的な課題の中に、4次計画に残土の話も入っておりますし、各部局の方とお話しながら何が書けて書けないのかを含めて検討したいと思います。</p>
池邊部会長	<p>今回は細かい課題の当初いただいた4次のところですね。</p>
志賀委員	<p>一ついいですか。先ほどおっしゃってた管理水準の話で、森林に即して</p>

	<p>言うと、管理水準の中身で三つぐらい次元の違うというか、それが重なってるといふ。一つは地籍調査という土地の権利関係とそれの追跡とか所有者自体が分からなくなっているという、一番基礎的な土地管理みたいなものがあるんですね。</p> <p>その次にそれを県とか市町村の行政が、いろんな制度はあるのだけれども林地台帳を作れと言ってるけれども、それがなかなか現地の実態とぴったり合わないというような話が二番目にあって。</p> <p>三番目に産業的なというか、経済行為としてなかなか回っていかないのて所用者も関心がなくて間伐が放棄されるという、それが一緒くたになって管理水準の低下という問題になって、そのメカニズムなりは少し違う部分の話だと思うのです。ですからほかの農地なりいろんな管理という言葉の中にそういう問題は入っているかなと、そこをちょっと踏まえた基本方針なり対策の方がいいのかなというのの一つ。</p>
池邊部会長	<p>とても大事な視点ですね。</p> <p>所有者の話と行政管理の話と本当の実態の話と。</p>
志賀委員	<p>それによって行政がどこまでやるべきなのかというのも違ってくると思うので。</p> <p>それからもう一点は、次回以降の話で、これで原則なり調整方針というのは7月の検討部会で骨子案と共に出てくるというスケジュールだと思うのですが、この原則なり調整方針が前回とそんなに大幅に変わらないものであるならばそれでいいとは思いますが、かなり議論を要することだと、細かい話はいいのですけれども、ちょっと一回前くらいに頭出しみたいなものがあつた方がまとまりやすいのかなという気がしたものですから、その辺を御考慮いただけるとありがたいです。</p>
事務局	<p>そうですね。頭出しというのはありえますし、8月21日の最後のときに骨子案プラスもう一つという調査方針で、骨子案にそこまで細かいことを書くとは思えないので、骨子案と並行して土地利用基本調整方針についても、また再度検討するとかというのもありえると思っています。</p>
志賀委員	<p>それは委員としてこうあつてほしいというのはあるのですが、やはり県の方がやるんだというふうにしているのか、この程度でいいのかということなのか。</p>
事務局	<p>検討します。</p>
池邊部会長	<p>ぜひよろしくお願ひします。</p> <p>ほかはよろしいでしょうか。</p> <p>今日は非常に建設的でいい意見がたくさん出たと思いますので、事務局の方としては少し宿題ができてしまったと思いますけれど、次回に向けての内容としてはいい知見がでたと思いますので、その辺りを少し反映して</p>

司 会	<p>いただければと思います。</p> <p>また次回大江委員も御出席なされたら農業の視点での特化するお話もあると思いますので、もし聞けるようでしたら事前にお聞きしていただいてもいいと思います。</p> <p>それでは、司会の方に進行をお返しします。</p> <p>ご審議いただき、ありがとうございました。</p> <p>次回は6月30日金曜日午後2時から予定しております。</p> <p>以上をもちまして、千葉県国土利用計画地方審議会第3回国土利用計画調査検討部会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>
-----	--